

奥州市市政懇談会「地域医療奥州市モデルの機能と新病院の役割について」  
内容に対する医師からの意見・要望

(取りまとめ：一般社団法人奥州医師会)

令和5年3月13日時点、30名回答

現住所	年代	職業	意見・要望
市内	50代	開業医	<p>新病院が必要か不必要なのか、から考えをまとめたいと思います。「奥州市の人口が減少する中で、新病院が必要か」という意見があります。それは奥州市に限ったことではなく、岩手県全体、日本全体に考えねばならない問題です。敢えてそこには踏み込みませんが・・・岩手県全体の人口減少が2040年には80万人になる中で奥州市は？と考えますと、県立病院が統合される危険性の中で、実は奥州市に県立病院が無くなる可能性もあると考えます。もしも夜間に病気になった時に、重症ならば少し離れてもありませんが、市内に公立病院があって欲しいと思います。</p> <p>住むことへの安心感の無い土地からは住民が減っていくことは必定。奥州市は今まで以上に苦しい状況になるでしょう。医師確保の問題も、奥州市が魅力ある土地でなければなりません。人口減少は患者数の減少です。市の方針としては、奥州市圏外からの人口流入を期待しており、それは決して悪いことではないと考えます。この12年、全く何の問題解決も無く、停滞してきた状況の中で、生き残りを賭けて新病院を市内中心部に建て替える、そしてそれを起爆剤に次なる戦略を練るという考えには賛同したいと考えます。</p>
(未記入)	70代	開業医	<p>もし新築する場合、設計する人・病院建築にたずさわった経験のある人を選んで、動線・病院機能に合った設計ができる人を選んでほしい。(今の水病はホテルを設計した人の様)</p>
市内	60代	自宅会員	<p>①奥州市モデル構築には電子カルテ必須で機種の一統が必要と思われる。よって一朝一夕には困難と思われるが、長い眼でみて、全員が取りいれられる様に市の支援や補助等も期待したい。よって総論賛成、各論は少し長い眼でみて欲しい。</p> <p>②新病院は建て替え賛成。市の奨学生なり、若い医師が、現行の老朽化した病院に来たいと思うよりは、新しい綺麗な病院にした方が来る気にさせると思う。また、当地域はリハビリの受け皿が足りないと聞く。民業を圧迫しないという事であればリハビリ病床賛成と思う。奨学生なり来てくれそうな若い医師には希望があれば1年のうち3ヶ月なり中核病院(胆沢・中部病院etc)での研修を認めるというような条件をつければ来やすくなるのでは。</p>
市内	30代	開業医	<p>①貴重なマンパワーを分散させているのはもったいなく、できるだけ市立医療施設は1つに集約させるべき。</p> <p>②医師の募集においては、給与水準の大幅な見直しで公務員といえど特例的に変更しないといけず、なおかつ行いたい医療を実現できる環境を整えないと、縁もゆかりもない土地に働きに来る医師などいません。</p> <p>③メイプルを改修して病院にするのが、有効活用や、駅前の活性化にもなり最善に思う。水沢公園では憩いの場の雰囲気壊される。</p>
市内	40代	開業医	<p>新病院は運動公園以外で考えてみて頂きたいです。 子供～大人が幅広く使用しているので残念です。</p>
市外	50代	開業医	<p>県立磐井病院の産婦人科が疲弊している。胆沢病院には産婦人科がない。以上のことを踏まえるとやはり産科・周産期センター、小児科に特化した病院を作るのも良いのではないかとと思う。少子化の問題はあるものの、子育て支援の行政面でも手厚いサポートがあれば人口減にも歯止めがかかるのでは。</p>
市外	50代	開業医	<p>①クリニックは電子カルテを使用しているが、クラウドに参入した場合、セキュリティ面で不安がある。参入しない場合のペナルティー等はあるのか？また、サイバー攻撃に対する対応、保障等もしてくれるのか？</p> <p>②県立胆沢病院との差別化を図るのであれば、子育てサポート機能の充実も盛り込まれているので、産婦人科医や小児科医の招へいに最大限の努力をした方が良いと思います(報酬等も含め)。</p>
市内	60代	開業医	<p>①市立病院の経営が厳しいのは、全国共通で、例えば首都圏に近い千葉などでも問題になっているようで、コンサルタントを入れてどうなるようなものではなさそうです。他県の例なども検討してから考えるべきだと思います。</p> <p>②周産期に対する医療の問題は切実で、県立病院で担うことも含め解決策をはかるべきだと思います。</p>

現住所	年代	職業	意見・要望
市内	60代	開業医	新病院の医師のリクルートは「医師のネットワークに期待する。そのために医師会に協力を依頼する。」と市長は言っているがこれは無理であることを医師会として明確に言うべきである。
市内	60代	開業医	近い将来、奥州市・一関市とも人口は9万人程度と予測されている。胆江・磐井医療圏の将来構想なくして水沢病院等に関する検討はナンセンスと考える。もっと県の関与を求めべきと思う。県が関わりを拒否するのであれば不作為と考える。このことは前市長時代も同様であり、市はもっと県とコミュニケーションをとるべきである。
(未記入)	60代	開業医	今回の議題の流れで一番残念なのは、当事者の水沢病院及び残すと決まった他の市立病院診療所からの今後の医療ビジョンが見えないことです。市役所が作った機能分化と相互連携はありましたが、果たして水沢病院の院長を始め、当事者がどう考えているかまったく出ていません。例えばまごころ病院では設立のポリシー・理念が当初よりはっきりしており、それに伴った医療が行われていることが地域住民の信頼の元となり、医師もそのポリシーに賛同し集まっているものです。水沢病院は現有勢力でいたい市民に対してどのような医療を提供する気があるのか。又は、提供したいのか科別にもはっきりその理念・ポリシーを伝えて、それに対する賛同がえられれば、ある程度の赤字は容認されるかも知れませんが、その気概がなければ、大きな赤字をたれ流す病院に対する賛同は得られず、胆沢病院又は江刺病院への吸収合併はやむなしと考えます。病院立地場所なんていうのは、さ末な問題と考えます。
市内	70代	開業医	公立病院が赤字が当たり前で、市の予算を当てるのが当然というのはおかしい。黒字になる様な対策を立てる必要がある。その努力なしで、市からの予算があるからいいと考えている様ではダメだと思う。奥州市は財政が悪く、水病の立て替えや診療所の維持はどちらも成り立たせるのは難しいし、毎年の赤字が累積し、後世に負担をしいる事になる。コストの少ない水病の立て替えは水沢公園近くは理解できる。江刺病院を譲ってもらおうという意見もあるが、魅力ある病院にしなければ、人は集まらないし、胆沢病院の負担が大きくなる可能性もある。
市内	80代	開業医	まず、(1) 近未来の人口減少が問題であり、今後30年の人口構成を見通して(2) それに見合う医師数の確保、特に産科や小児科の勤務医数の確保が重要であろう。(3) その上で、①急性疾患：救急疾患、感染症、災害対応、②慢性疾患：介護とリハビリを組み込み、(4) 医療機関の連携と患者さんのアクセスを勘案して企画すべきと思う。(5) 100年の計は、無駄である。急激な変革の世である故、20~30年単位で見直すべきである。(6) 具体的には、胆沢病院を中核とし、江刺病院を市民病院とし急性疾患を担い、水沢病院とまごころ病院は主に慢性疾患を担当する。金ヶ崎、前沢、衣川各診療所は、現状維持とし、民間医療機関と今まで通り、緊密な連携を取ることにする。(7) 水沢病院の水沢公園移転には反対である。

現住所	年代	職業	意見・要望
市内	40代	勤務医	<p>胆沢病院で働く医師です。</p> <p>奥州・金ヶ崎地区に必要な「真の急性期医療」は胆沢病院で対応可能です。機能が被る病院の新設は必要ありません。しかし急性期医療機関の業務を圧迫しているのは、地域包括ケアの中で行われるべき高齢者に対するケアであり、これを新病院が担っていただけるなら、多くの市内医療関係者は設立を歓迎すると思います。</p> <p>しかし専門医療を長らく行ってきた医師、現在の体制に慣れてしまったスタッフが、急に在宅診療やリハビリなどを含めた地域包括ケアに舵を切れるのか、あるいはプライマリ・ケアを得意とする医師やメディカルスタッフを新たにリクルートしたり、育てることができるのかという点に疑問が残ります。病院が新しくなっただけで、中身は同じ病院になるのではないかと危惧します。</p> <p>胆沢病院と機能が異なる、市民にとって必要な病院を作れるのかは、ハードではなくソフトで決まります。今回提示された案を見ると充実したソフト案が書かれていますが、私達には具体的に実現可能なイメージが見えてきません。例えばクラウドを用いて情報共有はどのようにするのでしょうか？電子カルテを共通化するのでしょうか？それが出来ればかなりの効率化が出来ますが、経営母体が統一されている県立病院の中でも未だうまくいっていません。電子カルテの他に情報共有ネットワークを作るのでしょうか？入力の手間が2倍になるだけで利用価値の低いものになるでしょう。</p> <p>ハードはお金をかければ出来ますが、良き医療者、良きソフトはお金をかけただけでは出来上がりません。実際に、ハコは作ったが中身が無く残念な状態に陥った地方病院をたくさん見てきました。まずは市民にとって、また奥州地域の医療を担う者にとって、ニーズを満たせる実現可能なソフトづくりから始めるべきだと思います。例えば奥州市に不足している在宅医療は、病院が無くても行うことができるはずで、それが出来ていないのに、新病院を作れば勝手にできるようになるのでしょうか？新病院が出来たらこれをやりたいという綺麗事ではなく、ソフトを作ってからそれに必要なハコを計画するという順番が大切だと思います。多くの自治体が失敗してきた歴史を繰り返さないことを望みます。</p>
市内	50代	勤務医	<p>水沢病院は当地域で2番目に多い年間600台以上の救急車（1番は年間3000台の胆沢病院）を受け入れているが十分かと言われると現状の医師数ではなかなか増やすのは厳しいところで、ここが医師数の底と思いながら働いている。コロナ禍では、ワクチン接種（市内で一番多く接種した医療機関）、コロナ診療（当地域で一番多く入院をとり、コロナの担当医は休日も昼夜問わず働いていたため当直など担当医のバックアップを行った）、土日を含めた発熱外来や濃厚接触者への行政PCR検査、夜間発熱患者の救急車対応、胆沢病院と連携してのクラスター施設への往診など少ない常勤かつ協力可能な医師で連携してできることを精一杯やったつもりだが、休みもとれず働く中で公的病院としてもっとたくさんやれという一部同業者の声には後ろから刺される思いがした。感染症への対応は公立病院として水沢病院の使命であるとの院長の強い思いに共鳴して頑張れた。</p> <p>将来的（数年から十数年先）には、地域性などを勘案して衣川は19床の診療所継続、まごころ病院は19床の診療所化が無床化、近隣に民間施設の多い前沢診療所は廃止の方向となっていく可能性があるが個人的には想像しているが、現時点での水沢病院の耐震性や老朽化を考えると新築以外の選択は難しいと考えている。もちろん院長も含めてわたしたちに決定権はないので決められたことに従うとしか公には言えず、日々の診療を頑張るしかないのは百も承知であるが。</p>
市外	60代	勤務医	<p>個人の感想です。</p> <p>水病をセンター病院とし、まごころ病院・前沢診療所・衣川診療所はサテライトとして、無床とし、入院が必要な患者は水病にスムーズに入院させるような態勢がよろしいと思います。</p> <p>病床をなるべく残したいのであれば、まごころ病院と衣川診療所は19床の診療所、前沢は無床でよいと思います。</p> <p>場所は胆沢病院とかぶらないように、水沢の北側がよいと思います。</p> <p>在宅医療は重要で、各サテライトで担い入院が必要な際には水病に収容するのが理想かと思えます。</p>
市内	60代	勤務医	<p>まごころ病院に集約（医師を集める）するのが、最も合理的・効率的だと思います。まごころ病院を増改築して新しい機能の付加、新しい町づくりを行うべきだと思います。</p> <p>前沢・衣川診療所は外来のみとする。医師は新しいまごころ病院（名前を変更しても良いでしょう）から派遣する形だと継続性が担保されるように思います。</p> <p>水沢には訪問看護ステーションなど、福祉・介護等のセンターを作るのが良いと思います。</p>

現住所	年代	職業	意見・要望
市内	60代	勤務医	<p>1. 新病院の建設について</p> <p>1) 建設場所に関して  市は市立病院の機能・役割が異なるという理由でさらに胆沢病院に近い場所への移転案を提出したことは地域医療構想の観点から外れていると言わざるを得ません。令和元年9月27日、厚労省が全国424病院の再編を促す報道がありました。県内では10病院があげられ、そのうち水沢病院での指摘事項が「<u>類似・近接での病院あり</u>」でありましたので再検討が必要かと思えます。  また、少子高齢化・人口減少の中、地域医療構想を考える上で医療資源の現状維持という考えは有り得ず、<u>診療所を含めた市の医療機関の医療計画を立てた上で新病院の計画を行うべき</u>と考えます。  かつて何度も申し上げていたことですが、新病院の建設に関しては決して反対しているのではなく、周囲の医療状況、人口減少の中での少子高齢化を熟慮した上で私心を排除し冷静に判断してもらい、ある程度の方々が納得のいく計画を立てて頂きたいのです。</p> <p>2) 医師確保に関して  県内の医師確保は他県に比べ厳しく、特に中小病院の医師確保に関しては全国各地同様の悩みを抱えており殊更厳しいのが現状です。そのような状況下で、今まで何度も局からの説明を伺っていましたが未だ納得のいく説明がなく、医師確保対策が十分機能しているとは思えません。若い先生方は主に基幹病院の勤務志向となっているため、中小病院への勤務は敬遠されています。残念ながら臨床研修医制度ができたのがその原因の根底にあるのです。自分の実力を発揮できる場所（症例数・指導医の充実・医療環境等）でなければ医師は集まらず、ましてや水沢病院は臨床研修指定病院となっていないため、継続した医師確保は厳しいと思われまます。例え若い先生が勤務したとしても数年単位であり、地域病院に必要な“継続常勤勤務”が困難な状況であるため、高齢化した医師が病院を支える構造とならざるを得ないのです。加えて診療以外（委員会等）の仕事も高齢医師で支え合わなければならなくなってきました。このことは水沢病院に限ったことではなく、全国の中小病院の抱える大きな悩みの種となっています。何度も申し上げますが、若い先生からみた魅力ある病院とは、①指導医がいる、②症例が多く多岐に及ぶ、が必要最低限となっている時代です。今後回復期病床を中心となりますと全国的にみても中小病院は医師確保が厳しい状況に置かれることは言うまでもありません。但し、何れは基幹病院から外れた（溢れた）医師が勤務する時代が来ますがこれは未だ未だ先の話です。  5年、さらには10年後、現在勤務されている常勤の先生方が今後どう勤務されるのか、退職となった場合その先生に代わる常勤医の確保ができるのか疑問です。</p> <p>3) 感染症病床に関して  医師確保とも関係しますが、感染症を専門とする、あるいはそれに代わる医師の確保が必要と考えますが、この件に関してもどのような対応を考えているのか伺いたいです。</p> <p>4) 財政確保に関して  医師の確保がままならない状況下で収益確保は本当に実現可能かどうか疑問です。現在の収支状況でさらなる借金をし、収支が好転するとは考えられません。以前から自治体病院は赤字やむを得ずと言われてはいますが限度があると思えます。  今後高齢者患者は増加しますが、何れ人口減少により患者の減少は確実です。因みに、岩手県では外来患者数のピークは2015年で既に減少の一途を辿っていますし、入院患者数のピークは2025年と推定されています。また、2030年（7年後）には奥州市の総人口は10万人を割り、約99,000人となる見込みです。財政の確保はどのようにするのでしょうか。  市長は奥州市に企業が入ることで雇用促進から人口増加を期待しているみたいですが、雇用と定住は全く異なりますので人口増加には繋がるという発想は乏しいかと思われまます。雇用の居住地により左右されますが、雇用者は単身者が多いと思われ、今は交通網が発達している時代ですので定住者の期待はできないと言わざるを得ません。</p> <p>2. 地域医療奥州市のモデルについて  このモデルに関しては良い案だと思います。今後はICTを活用した医療体制が行われる時代が来ますので、この様な案は賛成です。しかしながら、市の医療計画が十分に出来ていない状況下では時期尚早と考えます。出来ていない状況で行いますと無駄な設備投資がかかることは言うまでもありません。</p> <p>3. 医療施設間における機能分化と相互連携  既に行われておりますので問題はないかと思えます。</p>

現住所	年代	職業	意見・要望
			<p>4. その他</p> <p>1) 市政懇談会では市民に対し都合の良いことしか説明していないような感が否めません。現実を直視した説明をすべきではないでしょうか。市民は半数賛成意見であったようですが、状況をしっかりと把握した上で賛成意見を言っているのか疑問です。違和感を覚えます。市の説明をみますと間違った、可能性に乏しい回答が散見されます。</p> <p>2) これからの高齢者医療・介護に求められているのは、健康寿命の延伸（健診・リハビリテーション強化）、在宅医療が中心となります。これに準拠した施設整備を重視すべきだと考えます。</p> <p>3) 「地域医療奥州市モデル」と「新病院建設」の前に“まちづくり”を考えて欲しい。奥州市の玄関である駅前・周辺整備も考える必要があるかと思えます。数年以内に完成する北上の街開発を参考にしてみたいかでしょうか。 多世代が集まるエリア・施設は必ずしも病院ではありません。病院は娯楽場・憩いの場ではありませんので間違わないでいただきたいと思えます。 → 今後の奥州市のランドデザインはどのようになっているのでしょうか？ まずはこれが基礎になるかと思えます。高齢者を安心して効率良くケア出来る複合施設を整備して欲しいと思えます。</p> <p>4) 「地域医療奥州市モデル」と「新病院建設」の案に賛成意見を唱えている市議会議員や県議会議員さん達の意見を是非聞きたい。 → 聞くことによって真意が分ることになります。 仮に状況を把握していないようならば、ここからしっかりと説明する必要があるかと思えます。</p> <p>5) 夢を見るのは良いと思いますが、現実を直視しないで物事を考えずに計画を立て、実行することは極めて危険です。</p>
市内	70代	非常勤医	<p>①名称を奥州市立病院に変更する。 ②市長が願う施設・機能に集約する。医師会や市民に意見や要望を求めても集約出来る時間を要するだけである。アドバイスを求めるなら沢内病院移転の関係者か、水沢病院の事務長経験者千田氏と小野寺氏にお願いするのが実務的である。</p>
市内	50代	開業医	<p>市民の健康を考えるべき病院移転が健康維持に重要な運動公園とは失望しました。運動する場所をなくすなら、別の場所に陸上競技場を作って頂きたい。子どもから老人まで皆が利用できるいい場所だったのに残念です。 又、産科が無理な事は、はっきり表明すべき！ いつまでもあいまいではダメです。 産婦人科医2名以上、小児科医、麻酔科医、助産師4名以上看護師10数名、その他スタッフが必要なのが産科医療です。市民にははっきりと説明をし、あいまいにはしないで下さい。</p>
市内	60代	開業医	<p>新病院の役割について</p> <p>1. 現在医師数が全く足りない状況で、新病院にすることによって医師の確保ができると思っているのか。思っているのであればその根拠は何か。市民の税金を使っているわけで、一本釣りでも医師を確保しても後が続かなければ意味がない。</p> <p>2. 一般病床50、リハビリ50、とのことですが、リハビリ科、整形外科、脳外科の医師がいない状態でリハビリは機能するのか。</p> <p>3. 市町村統合によって機能を集約して経費を抑えなければいけないところが出来ていない。老人が安心して使えるような交通網を作って医療を集約できないのか。</p> <p>4. 公園をつぶして病院を建てるのは大反対。近くに、何に使っているかわからない町の駅水沢（旧胆沢病院跡）があるではないですか。なぜそこが候補にならないのか疑問。</p>

現住所	年代	職業	意見・要望
市外	60代	開業医	<p>会議の正式名称は忘れましたが、地域医療の評価がされた際に、一行政地区に5個の旧市町村立病院がある事は財政面でも非効率で、不適切と評価されたと記憶しています。民間医療機関のない衣川地区は考慮すべき点があります。総論では5市立病院を集約する方向で決まっていたはずですが、選挙があるたびに各地区の公立病院は存続すると手のひらを返され、反故にされ続けてきました。産婦人科の件も市長が頼めば無理をしてでも産科チームをセットで融通してくれるパイプがあったとは思えません。他の先生の意見にもありましたが、実現が難しい内容の約束をして、医療を集票の材料にするな。</p> <p>五つの市町村が合併したので、それぞれの地区に共通して存在する施設や機能がある程度集約し効率化しなければ合併した意味がなくなります。総論賛成、各論反対では埒があきません。可能な範囲で集約し、効率化していく必要があると思います。</p> <p>県立胆沢病院と江刺病院の動向に関しても、奥州市立病院や診療所の位置付けが変わってくる可能性があります。こちらも同一医療圏に県立病院が2か所存在する問題があり、仮に江刺病院が撤退になった場合には、江刺地区の医療資源が弱くなってしまいます。その辺の可能性はどうでしょうか。可能性が高いのであれば、新病院は江刺寄りの水沢か、水沢寄りの江刺の方がベターではないか。梁川地区（国道109号線沿いは北上に出る方が楽）の話があったが、何が何でも奥州市でカバーしなくても、北上医療圏に行きやすくする、例えば梁川地区には北上医療圏で健診やワクチン接種が出来るようにするなど。医療圏をまたぐと、手続き上の問題や北上市と奥州市との関係（補助金の取り扱いなど）、北上医師会と奥州医師会の関係などハードルは高そうです。</p> <p>現総合水沢病院に耐震上の問題があり、早急に対処しなければならない事は大前提ですが、十分に議論して妥協点を見つけるしかないと思います。補強工事で対応不可能であれば、新築も仕方ないでしょう・・・。</p> <p>医師会館も老朽化のためそのうち、改築・建て替えなどが必要になっては来ませんか。医師会館に休日診療所・夜間診療所を併設するメリット（例えば使用料が入る、当番医が会議にも出席できる）、デメリット（建築費が高くなる）があると思います。</p> <p>新水沢病院が本当に救急医療を充実させるのであれば、新病院に隣接する休日・夜間診療所を作る案はどうでしょうか。診察と投薬程度は診療所で、検査が必要そうな患者さんは市立病院に振り分けるなど同じ敷地内でやり取りできるように。直ぐには実現できないと思うので、新病院の脇に休日診療所・夜間診療所を増築可能なスペースを確保しておくことは可能でしょうか。奥州市と奥州金ヶ崎行政組合の関係があるので、簡単ではないかもしれませんが。</p>
市内	70代	開業医	<p>胆沢病院があるため市立病院（全て）は不要です。税金の無駄です。必要なものは産科と医療施設の少ない衣川診療所だけとされます。</p> <p>医療を議員の人気とりに利用するな！ unnecessaryな医療施設は造るな！</p>
(未記入)	70代	開業医	水沢病院の新築は必要なし。

現住所	年代	職業	意見・要望
市内	60代	勤務医	<p>残念ながら市長はじめ市の担当者は、耳障りの良い空想を述べているようにしか聞こえません。現状をよく分析・認識して、現実的に妥当な計画を立てて頂きたいと思います。</p> <p>昨年、「県立病院の建物は原則として60年使用する」という県の方針が出ました。水沢病院をもし今後新築するのであれば、向こう60年程度は有効に運用できるという見通しを考えておく必要があります。このためには、長期にわたる常勤医師の確保策が不可欠です。どんなに優秀で実績ある方であっても、60代医師の一本釣りではもって10年です。正しい新陳代謝を伴った長期的な医師確保の目処がない状態で、病院だけ立派に新築してもなんの解決にもなりません。医師が古い建物より新しい建物に集まるというのも根拠のない話で、そういう基準で就職先を決める医師はほとんどいないのではないのでしょうか。医師は、学びと活躍の場を求めています。</p> <p>周産期医療に関しては、現実的にどんな医師確保の見通しがあるのでしょうか。これまで、当地域でもどれだけの取り組みがなされてきたか、現在の日本の産科医療の実態がどうなっているのか。安心して子供を産んで育てられる奥州市であってほしいという想いは、医療従事者を含め全市民共通ですが、確保するなど軽々しく発言するだけで、認識不足が露呈されてしまいます。</p> <p>現在の総合水沢病院の建物がすでに限界を越していることは存じていますが、将来の見通しの立たない病院のために巨額の予算を使うことは、市民税を納付する一市民としても反対です。しかも、そのために市民の憩いのシンボルである水沢公園の陸上競技場を使用するのはもってのほかと考えます。</p> <p>駅前の過疎化対策と合わせて、当面はメイプルを改装して水沢病院とし、今回打ち出した地域医療奥州市のモデルを実際に行ってみてはどうでしょうか？計画の内容的に多くのものは可能なのではないのでしょうか。構想通り実績が上がれば病院新築にも説得力が出てきますし、そうでなければ、耐用年数に限界がきたところで、再評価して改めて検討する、というのが現時点では最良かと考えます。</p>
(未記入)	70代	勤務医	<p>奥州市地域の人口、医師の現状（若者意向と高齢医者の傾向）を考えると、新たな胆沢、江刺、水沢病院は必要とされないと思います。</p> <p>医師資源の有効活用、事務系の簡素化（PC利用、数病院の一体化）を考えると胆沢病院をセンターとしてサテライトにほかの施設を位置づけ、”機能分担”をしてはいかがでしょうか。</p> <p>最近は Internet を介して電子カルテの共有は可能なはずですが。</p> <p>職員の身分も1施設として、サテライト勤務は部署の変更として扱うなど、職員の一体化、協調性を上げるなどの待遇改善、安定性を図るなども重要と思います。互いを競わせて実績を上げる、鼓舞するなどは昔の話、協調性を図ることこそ大切などと思えます。</p> <p>3病院の一体化こそ医療の質、過疎化を解消する Key であると思われまます。この悪しき現状の一つが産科に表れているように思われます。</p> <p>中心が県立であることはかなり難しい点であると思われまます、奥州市民一丸となりこの困難を乗り越えていけることを願っています。</p>
市内	70代	勤務医	<p>①岩手県内で市立病院があるのが盛岡市と奥州市等のみであり、（イ）奥州市内は県立病院また開業医とも医療供給体制が充分にあること、（ロ）新病院に多大の資金がかかること、（ハ）毎年の赤字が予想されることを考え、新病院は中止することが良いと考える。</p> <p>②各地の診療所は現状のままで良いと考える。</p> <p>③出産出来る施設は奥州市内に必要と思う。</p>
市内	70代	勤務医	<p>どうしても新市立病院を望むというなら、「公設民営」ならと提示してみたらいかがでしょうか。私には新市立病院で誰にメリットがあるかを考えると、病院職員以外に思い付きません。</p>
市内	70代	勤務医	<p>奥州市の財政が豊かで、赤字医療施設を維持出来るのであれば、市立の5医療機関を存続させ新病院を建設すればよい。</p> <p>そうでなければ、スキー場や温泉施設と同様に、医療機関も規模を縮小し外来のみの診療所とすべきでしょう。</p> <p>奥州市だけ医療に予算をつぎ込む理由がわからない。過去のいきさつにこだわるなら町村合併した意味がないでしょう。</p> <p>県立病院を中心とした奥州市医療連携モデルを構築するべきではないですか。</p>